

はじめに

※材料の準備、確認

御注文いただきました資材及びその数量をご確認下さい。

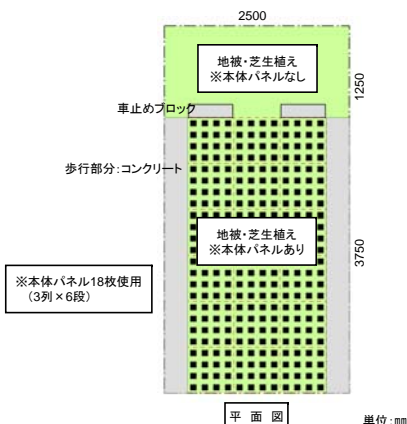
主な材料として、本体パネル、縁石ブロック、車止めブロック、砕石、クッション砂、不織布、客土、植物、歩行補助材、暗渠管等が必要になります。

※保管上の注意

本体パネルは燃焼・変形のおそれがあるため、火気から遠ざけて下さい。

本体パネルは立てかけずに、平置きして下さい。

標準パターン図



施工手順



①路盤整正転圧



②クッション砂敷均し



③不織布敷設



④本体パネル設置



⑤客土敷均し



⑥植物植付け



⑦歩行補助材設置



⑧散水



⑨完了

準備

- 現地を実測し図面と照らし合わせて下さい。
- 本体パネル、植物、客土、歩行補助材など、必要な材料が揃っているか確認して下さい。
- 暗渠排水処理方法の検討をして下さい。

既存アスファルト・路盤の撤去

- 図面に従い、位置出しを正確に行ってください。
- 埋設物に注意し、所定の深さまでスキ取ってください。

縁石・車止め設置

- 設置位置、仕上がり高さを図面と照らし合わせて確認して下さい。
(縁石天端とGTPパネル柱頭部は同じ高さに仕上げます。)

暗渠管設置

- 設置位置、暗渠管勾配を確認して下さい。
(勾配は1%程度)
- 暗渠管端部は、集水桝等に接続するなど、適切な流末処理をして下さい。
- 不陸防止のため、本体パネルの連結部の下には極力暗渠管を敷設しないで下さい。
暗渠管は本体パネルの中央部になるように敷設して下さい。



路盤整正転圧

【施工手順写真①】

- 再生砕石(RC)は使用厳禁です。(アルカリ害で植物が育ちません。)
- 整正転圧をプレートコンパクター等で入念に行ってください。
(転圧不足は不陸の原因となり、植物が枯れる原因となります。)

歩行路コンクリート打設

- 早強コンクリート(24N-8-25)、溶接金網D6-150×150で打設して下さい。

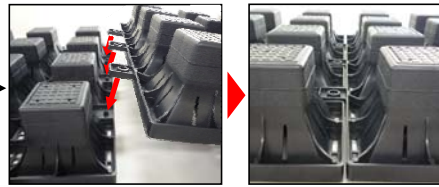
クッション砂敷均し・不織布敷設

【施工手順写真②③】

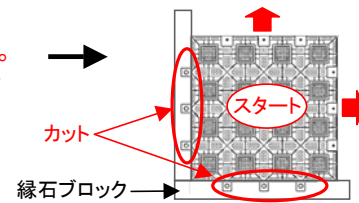
- 転圧、不陸整正をプレートコンパクター等で確実に行ってください。
(ILBや平板舗装の下地の要領で施工して下さい。)
- 重ねシロを100mm以上にして砂の上に敷設して下さい。
(めくれ上がり防止に養生テープ止めをお勧めします。)

本体パネル設置 【施工手順写真④】

- ジョイント部分の凹凸を重ねます。→



- パネルは敷き広げやすい方向があります。端部の不要なジョイント部分はディスクグラインダー等でカットして下さい。

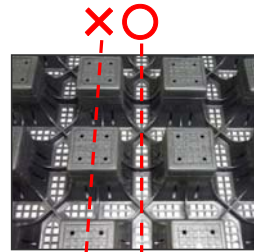


◎勾配変化などによりパネルの重ね合わせに隙間が生じる場合

- ジョイント部分を木ネジで固定して一体にして下さい。

◎切り加工が必要な場合

- 切断は極力パネルの谷部分で行うようにして下さい。柱部分での切断はパネルの強度が低下する可能性があります。



客土敷均し 【施工手順写真⑤】

◎敷均し高さの注意点

《タマリユウ(カットマットタイプ)植栽の場合》

- 柱上面より50mm下がるように入れて下さい。

目安の位置⇒ざらつき面(柱側面)の下端ライン

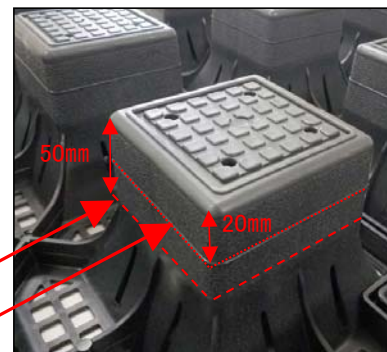
《芝生植栽の場合》

- 柱上面より20mm下がるように入れて下さい。

目安の位置⇒柱側面の凸ライン

客土目安ライン(タマリユウ植栽)

客土目安ライン(芝生植栽)



- 客土が高すぎると植物に踏圧がかかり、健全に植物が育ちません。

- 敷均し後に散水して下さい。散水後に客土が沈下した場合は、客土を補充して下さい。

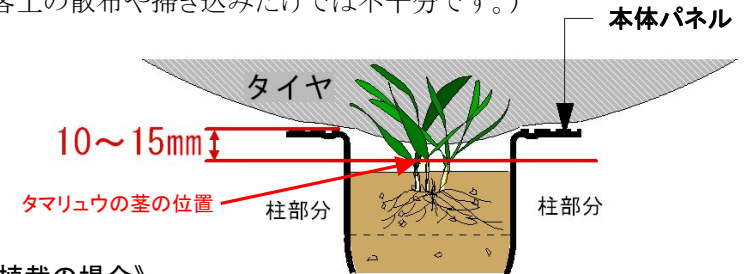
植物植付け 【施工手順写真⑥⑧】

タイヤの踏圧が植物の茎に直接かからないように植えて下さい。
※ 植物の茎がタイヤの踏圧を受けると、生育が妨げられます。

◎植付けの際の注意点

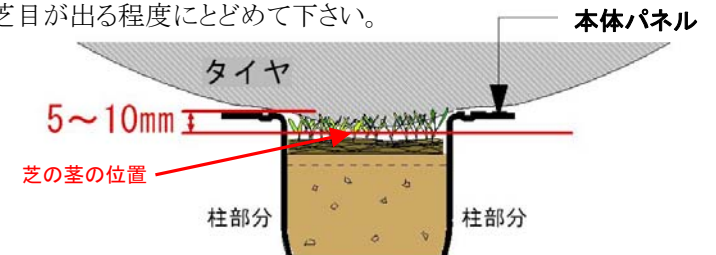
《タマリユウ植栽の場合》

- タマリユウの茎が柱上面より10~15mm程度下がった位置になる様に高さ調整をしながら植えて下さい。
- 根の周りは隙間ができない様に指先で客土をしっかりと詰めて下さい。(客土の散布や掃き込みだけでは不十分です。)



《芝生植栽の場合》

- 客土は角材等である程度転圧して下さい。
- 芝生の幅は70mmを目途に切断して下さい。(切断は押し切り機が有効です。)
- 芝の茎が柱上面より5~10mm程度下がった位置になる様に高さ調整をしながら張って下さい。
- 目土は芝目が出る程度にとどめて下さい。



◎植付けの後には十分散水して下さい。

- 7~8月に施工した場合、植付け後の1週間は毎日散水して下さい。その他の時期は乾燥で活着が阻害されない程度の頻度で散水して下さい。

歩行補助材設置 【施工手順写真⑦】

- 本体パネルの柱に歩行補助材を設置して下さい。

養生期間

- 散水後、客土が沈下した場合は適宜補充して下さい。
- できるだけ養生期間を取って利用開始して下さい。